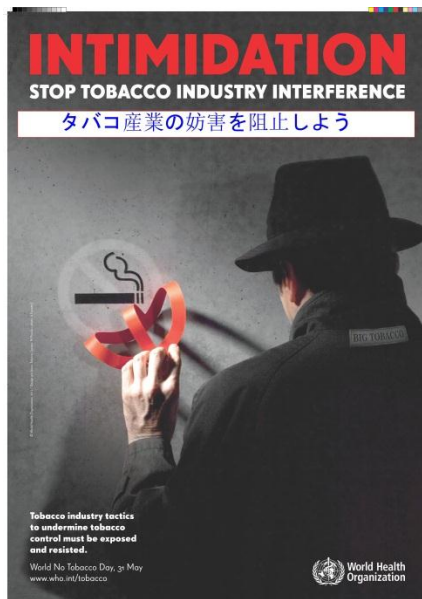


<< 北品川禁煙通信 >>

第5号:2012世界禁煙デー



来る5月31日は『世界禁煙デー』です。これは、『国際婦人デー』や『メーデー』などとともに国連などによって定められた「国際デー（週間）」であり、日本では毎年5月31日から6月6日までの一週間が『禁煙週間』となっています。今年のテーマは『STOP TOBACCO INDUSTRY INTERFERENCE（タバコ産業の妨害を止めさせよう）-上図-』です。前号まで世界保健機構（WHO）の国際条約である「タバコ規制枠組み条約（FCTC）」についてお話してきましたが、日本政府は批准国としてこの条約を誠実に履行する義務を負っています。かたやタバコ産業はこうした条約の施行を妨害する方向に動いてきました。

今回はそうしたタバコ産業の巧妙な妨害工作についてお話したいと思います。彼らの戦略の根幹は「気付かれないように」「したたかに」です。

皆さんは「分煙」という言葉をお聞きになったことがあると思います。これは同じ室内空間を喫煙と禁煙の空間に分けるという意味の言葉です。今、全国で起こりつつある受動喫煙防止の条例制定の際には必ずこの「分煙」という言葉が出て

きます。ここではつきりさせておきたいことは、WHOをはじめとするタバコの害を訴えている我々の立場から言わせてもらえば完全な分煙などあり得ません。これにはすでに多くの議論と研究がなされてきており「議論は終わった」状態です。話は簡単です。どんなに完璧に喫煙者と非喫煙者を空間で分けても同じフロアで出入りすれば喫煙者の吐く息からタバコの有害物質が室内にばらまかれ受動喫煙が起こり、分煙は無理なのです。タバコを吸いに外に出た人が戻ってきたときにブンとタバコくさいのを経験する、あれです。ですから室内における受動喫煙防止には『完全禁煙』しかありません。これを認めようとならないのが日本たばこ産業（JT）です。なぜなら、「分煙」を勝ち取ることが出来たら彼らの目標は達成なのです。そこに喫煙の橋頭堡を築くことが出来るからです。そのために最近では室内のリフォームと高価な空気清浄器の設置を中小の飲食店経営者に勧めるビジネスまで展開しています（ネット上で『分煙コンサルティング』で検索すればすぐに見つかります）。これらの設備にかかる費用は莫大です。しかし、それだけお金を使っても受動喫煙の被害は防げません。特に重要なことは、従業員の健康を守ることが出来ないということです。どんなに完璧な分煙が実現されても、従業員は喫煙室へ入っていき給仕をしなければならないからです。ここでは経営者のモラルも問われているのです。また、喫煙室という狭い空間に押しやられた喫煙者は互いのタバコの煙により高濃度の受動喫煙の害に曝されるのです。FCTCでは受動喫煙防止を訴えていますがその対象には『喫煙者』も含まれていることをここに記しておきます（これを「ユニバーサル・プロテクション」と言います）。世間では禁煙運動は喫煙者と非喫煙者の対立ととられがちですが実はそうではないのです。こうした対立の構図を誘導しているのは実はタバコ産業サイドであり、そうすることで終わりのない戦争のシナリオを描こうとしています。「分煙と称してタバコを吸わせる空間さえ確保できればこっちのもの。喫煙者や従業員が受動喫煙を被らうがお構いなし」・・・これがタバコ産業の本音と思われる。

『喫煙科学研究財団』という団体があります。喫煙と疾患に関する研究を行っている団体ですが、ここから出される論文は世界標準とはちょっと違った内容のものが多いのです。つまり、タバコとその発癌性について或いはタバコとありとあらゆる疾患との関係に否定的なのです。おかしいと思って調べてみると、この団体は1986年に財務省(当時は大蔵省)の許可を得て設立された公益財団法人であり、役員には元JTの重役や財務省からの天下りが名を連ねているではありませんか。そして、なんとJTから毎年3億5000万円もの多額の資金援助がなされています。「利益相反(Conflict Of Interest: COI)」という言葉があります。これは外部からの経済的な利益供与により公的研究における公平かつ適正な判断が損なわれることを言います。この喫煙科学財団はまさにこの利益相反にあたるものとしてここ数年、国内外から厳しい批判を浴びている団体なのです。勿論、彼らの論文を信じる人はいません。しかしJTはこうした論文をもとに世論操作を図ろうとしており、これは犯罪に近い行為と言えましょう。日本禁煙学会(作田学理事長)は2008年に喫煙科学財団に対して解散勧告を出していますが、残念ながらまだ活動は続いているようです。

JTによる世論操作は日常茶飯事です。最近では、神奈川県を受動喫煙防止条例の例があります。これは、2006年12月から翌2007年1月にかけてインターネット上で実施した『条例で公共の場所の喫煙を規制すること』についてのアンケートに対し社員などにアンケートで『反対』の投票をするよう依頼していたことが判明したものです。JTは、「条例が成立すれば、ほかの自治体に波及する恐れがあった」としています。実際のアンケート結果でも初めは賛成票が多数を占めていましたが、締め切り前になって反対票が上回る事態となりました。JTは、「条例反対はあくまでわが社のスタンス」と開き直っています。この件を受け、神奈川県はアンケートを無作為抽出・郵送方式でやり直し、2007年12月12日に結果が発表されました。再アンケートの結果は賛成票が88.5%を占めました。最近、神奈川県に続いて兵庫県でも受動喫煙防止条例が可決されましたが、その過程においても同様のタバコ

産業の組織運動は見られたようです。この条例の内容に関してJTが発表した意見の一部をご紹介します。

「…病院や官公庁等の施設における従業員のみが出入りする区域や、プライベートな空間である旅館・ホテルの客室、および受動喫煙による深刻な健康影響(肺がん等)に関する科学的なエビデンスが存在しない屋外空間を規制の対象とすることは、県民や事業者等の受動喫煙に関する理解に混乱を生じさせる虞があります。条例の基本理念に鑑みれば、これらは規制の対象外とするのが適当であると思われま。…」

つまり、病院内にも喫煙所を作れというんでもない意見です。しかし、受動喫煙防止に向けての世界の流れはどんどん進んでいます。JTとてそれを止めることはできません。

現在、街のタバコ屋さんは数の上で衰退の一途を辿り、今やタバコ販売の最前線はコンビニエンスストアです。皆さんもお気づきのように店に入るとレジ裏にはどの店にも同じようにテザインされた大きなタバコの陳列ケースが作られており足元にはお菓子か何かと見間違えるような綺麗なパッケージに入った女性向けのタバコが、時には景品付きで並べられています。FCTCを批准する多くの国ではこうした派手なタバコの陳列はTVコマーシャルと同様多くの未成年の目に触れることから厳しく規制されています。しかし、日本ではTVのCMは業界の自主規制により無くなったものの自動販売機を含めたタバコの広告は野放しです(自販機は広告と見なされます)。JTは「未成年喫煙防止キャンペーン」を企業の社会的責任(CSR)であると言って全国的に展開(実はこのキャンペーンも未成年をタバコに引きずり込む戦略のひとつです)していますが、このタバコ販売の問題に関しては知らん顔です。私は以前、このタバコ棚の撤去或いは欧米のように商品が未成年の目に触れぬようカモフラージュをして下さいとJTにメールをしましたが回答は下記のようなものでした。

「…弊社といたしましては、たばこを吸われる成人の方は、合法的な成人の嗜好品であるたばこに関する情報を、適切に得る権利があるものと考えております。また、財務省からの製造たばこの小売販売業を持つ各たばこ販売店様は、たばこ商品の広告やキャンペー

ン等の情報につきまして、たばこを吸われる成人の方に対して、適切に提供されているものと認識いたしております。一方、未成年者の喫煙は法律によって禁止されており、弊社といたしましても未成年者の喫煙防止は、大変重要な課題であると認識し未成年者にたばこを吸わせることを意図した活動は一切行っておりません。また、たばこの業界団体では未成年者喫煙防止の観点から、広告や販売促進活動に関する自主規準を設け弊社はこれを遵守いたしております。……>

と、木で鼻をくくったような返事です。

またコンビニの店先には必ずと言っていいほど大きな灰皿が置いてあるのをご存知でしょうか。タバコを吸わない人はあまり気づかないかもしれませんがあれはJTから寄贈されたものです。JTは灰皿をコンビニ前に置かせることによってそこに喫煙者をたむろさせタバコ販売の一環としています。少しでもたくさんの灰皿を街に置きたい考えなのです。多くの灰皿は歩道に面している所に置かれているため歩行者は常に受動喫煙の健康被害に曝されることになります。本来は必要のないものをこうしてそつと置かせることで喫煙者をここへ誘導し、また禁煙しようとしている人に再喫煙の場所を提供しているのです。この灰皿に関しても撤去する旨のメールをコンビニの本社に送りましたが会社の返事は「我々も受動喫煙の害については同意するが、判断は各店の店長に任せてある」と言うものでした。それではと、実際に店長に申し入れてみましたが、「店の一存では決められない……」とこちらも歯切れの悪い回答でした。コンビニではタバコは大事な収入源でありタバコ産業には逆らえないのでしょうか。でもわざわざ店先でタバコを吸わせる必要はないはず。我々はただ、喫煙をするなら誰もいないところで吸ってほしただけなのです。

五反田駅東口の喫煙所(写真)をご存知でしょうか。駅を出て右、ソニー通り方向へ歩いていくと歩道橋の下にこれもJTから区に寄贈された大きな灰皿が置いてある喫煙所があります。本来、白線を引いた内側で喫煙することが求められていますが朝のラッシュ時は歩道一面に喫煙者が広がりタバコの煙でもうもうとしており歩行者は受動喫煙の健康被害なしには通れません。この喫煙所に関しては品川区に再三撤去を求めたメールを送っていますが、区長を初め担当係はこれまで

のところ何もしていません。健康部では受動喫煙の害に対してある程度の認識を持っているようですが灰皿を設置した環境部にはそうした認識はなくただポイ捨てが減ればよいという考え方なのです。現地で清掃をしている方に聞いてみると、タバコのポイ捨てが一番多いのは実は喫煙所周辺だそうです。まさに縦割り行政の弊害ですね。FCTCではタバコ産業のスポンサー活動をその第13条で禁じています。公共の機関がJTと関わってはならないのですが日本の多くの役所では資金面で助かるためにJTからの申し出を考えなしに受け入れてしまっているようです。



こうした種々の問題には何はともあれ地域の声が必要不可欠です。どうか読者の皆さんにおかれましても個人的に或いはPTA・町内会などを通じてこうしたJT灰皿の撤去をお店にまたは区に申し入れて頂きたいと思います。黙っているということは容認しているということにもなりかねません。我々の健康を脅かすこうした何気ないJTの工作は断固として排除していかねばなりません。

<< 女性必見!! >>

危険！喫煙があなたの外見を徐々に醜くするリスク15

(<http://www.health.com/health/gallery/0,,20340112,00.html> を改変・要約したものです)

タバコが様々な健康上の問題を引き起こすのは周知の事実。しかし、「本当はやめたいんだけど……」と思いつつ、なかなかやめられないという人が少なくないのではないで

は？あるいは、「別に将来病気になってもいいわよ。今が楽しければ！」と開き直っている人もいるかもしれませんね。では、タバコがあなたの外見にも様々な悪影響を及ぼすという点について、あなたはどのように考えますか？

1) 目の下のクマ： 寝不足は美容の大敵。朝、目の下のクマを見て泣きたくなったことはありませんか？喫煙者は非喫煙者の4倍も、寝不足になりやすいのだそうです。

2) 皮膚病： 乾癬(皮膚病の一種)は、自分の免疫や遺伝に関係する症状で、喫煙によって皮膚がうろこのような状態になるリスクがかなり高くなるのです。また、リスクは自分が引き受けるだけではありません。妊娠中または出産後に喫煙の習慣があると受動喫煙で胎児や子供にまで影響が及びます。

3) 歯の黄ばみ： タバコに含まれるニコチンで、歯が黄ばんでしまいます。タバコ代だけでなく、歯をホワイトニングする費用までかかってしまいます。ホワイトニングは保険適用外になることも多いので、その出費は決して小さくありません。

4) シワ： 喫煙によって若いうちから現れるシワは、その人を知的に見せるものではありません。専門家によれば、タバコには老化を加速する作用があるので、喫煙者は非喫煙者と比較すると、平均1.4歳老けてみえるとのこと。

5) 指や爪の黄ばみ： タバコに含まれるニコチンはあなたの歯、家の壁だけでなく、指や爪まで変色させてしまいます。

6) 抜け毛： 喫煙者は抜け毛が多く、白髪が増えやすい傾向があります。ある研究によれば、加齢や遺伝といった薄毛のリスクを高める要素を考慮にいれても、喫煙者は非喫煙者の2倍も抜け毛のリスクが高いそうです。

7) 目立つ傷跡： ニコチンは血管収縮を引き起こします。つまり、血管が狭くなって、全身の毛細血管に酸素が行きわたりにくくなるのです。その結果、喫煙者は非喫煙者よりも傷のなおりが遅く、また傷跡が大きく赤く目立ちやすくなります。

8) 歯の欠落： 喫煙は、口腔癌や歯周病など、口のなかで起こるあらゆる問題のリスクを高めます。喫煙者は非喫煙者より6倍も歯周病になりやすく、その結果、歯も抜けやすいのだそうです。

9) 肌ツヤの悪さ： 喫煙者を見て「肌がくすんでいるなあ」と思ったことはありませんか？決して気のせいではありません。

タバコの煙に含まれる一酸化炭素やニコチンによって、皮膚の酸素が減少し、血のめぐりも悪くなるので、肌が乾燥して血色の悪い状態がもたらされます。さらに、喫煙によって、ビタミンCなどの栄養分が不足してしまうのです。

10) 消えない手術創： 喫煙者は、フェイスリフト、抜歯などの手術後の回復具合がよくないことが複数の研究で明らかになっています。

11) イボ： まだ原因は明らかではありませんが、喫煙者はヒトパピローマウイルスに感染しやすいそうです。ヒトパピローマウイルスに感染すると、性器を含む体の様々な部位にイボができることがあります。研究によれば、タバコを吸う女性は、吸わない女性とくらべておよそ4倍も性器のイボができやすいことが判明しています。

12) 皮膚がん： タバコは、肺がん、口頭がん、食道がんなどがんの主要な原因。皮膚がんのリスクも当然高めます。2001年の研究によれば、皮膚がんのなかで2番目に多いタイプの扁平上皮癌は喫煙者は非喫煙者より3倍かかりやすいそうです。

13) 肉割れ： 妊娠などで急激に体重が増えたときには“肉割れ”あるいは“妊娠線”と称される線が皮膚にできることがあります。体重増加だけでなく喫煙も肉割れの原因です。

14) ぶよぶよのお腹： 2009年のオランダの研究によれば、喫煙者は非喫煙者よりも内臓脂肪が多いそうです。内臓脂肪が多いと、お腹がぼっこりする原因となりますし、さらには糖尿病などの疾患のリスクも高まってしまいます。

15) 白内障： 白内障になるのはお年寄りに限りません。加齢だけでなく、タバコも眼のレンズに酸化ストレスを加えることで、白内障のリスクを高めます。ある研究によれば、継続的に喫煙することで白内障のリスクは22%高まるそうです。

以上、喫煙が外見に与えるリスクを15個お届けしてきましたがいかがでしたか？元記事によれば、喫煙のリスクは喫煙の期間よりも、どれくらいタバコを吸ったのかという総量が大きく関わるので、**タバコを辞めるのに遅すぎるとい**ことは**ない**そうです。なので、当記事を読んで戦慄を覚えた喫煙者のかたは、どうか一刻も早く禁煙に取り組んでください！

(文責 水村恒雄)